

(19) サービス業 (. 余暇関連その他サービス)

15 / 14 16 / 15 伸び率 10% 以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10% 以下

1 . 企業経営動向

余暇関連サービスは、景気動向や天候、そして消費者ニーズに大きく左右される特徴がある。特に、消費者ニーズは、生活様式の変化に伴う価値観の多様化により変化が激しくなっている。レジャー施設設備においても、顧客のニーズへの対応のため設備投資が行われるが、ニーズの変動が激しいため、その見極めが求められている。

遊園地業は、地方を中心に閉鎖や経営破綻等が相次いでおり、厳しい経営状態にあるものの、大規模テーマパークの開園効果等で売上高は微増となっている。また、遊園地に併設して大規模温泉施設のオープンが続き、いずれも集客は好調であり、遊園地の入場者数増加に寄与している。さらに特定ジャンルの飲食店を集めたフードテーマパークも各地でオープンし高い人気を集めている。

ゴルフ場事業は、消費低迷の長期化により利用者数が減少傾向にあることに加え、民事再生法などの法的整理により再建途上にあるゴルフ場との低価格競争が激化しているため客単価の減少が続いており、極めて厳しい経営状況が続いている。このため、キャディ制からセルフ制（電動カート等）への移行等によるコスト削減を行う企業も現れている。

リゾートクラブについては、施設の宿泊者数は、ほぼ横ばいに推移していて、利用者の活性は高くない。会員権の新規販売は、若干増加傾向にはあるが、一部活発な企業を除くと、ここ数年来生じていた欠員を募集している程度で、新たな設備投資を喚起するには至っていない。ただ、業界の一部には、既存の宿泊施設を安値で取得して、自社の施設ネットを増やす動きが見られる。業界としては、他社施設と相互乗り入れをして、共同利用による顧客メリットをアピールしているほか、一般にリゾートにより親しんでもらうよう、共同イベントを検討する動きも出ている。

2 . 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

遊園地の投資額は、14 年度実績は 114.2 億円（5 社合計）、15 年度実績見込みが 261.4 億円（5 社合計）と規模が拡大している。投資目的別では、更新維持と生産能力増強への投資が 99.9 % を占めている。

ゴルフ場は、14 年度実績は 3.8 億円（19 社合計）、15 年度実績見込みでは 7.8 億円（19 社合計）となっており、規模が拡大している。投資目的別では 35 % が更新維持となっている。

リゾートクラブは、14 年度実績は 28.3 億円（4 社合計）、15 年度実績見込みでは 28.5 億円（4 社合計）となっており、ほぼ横ばいの状況にある。投資目的別

では、91.4 %が更新維持となっている。

(2)平成16年度の設備投資計画

遊園地は、16年度計画では、3.6億円（4社合計）更新維持・生産能力増強を中心に小規模な投資見込みとなっている。

ゴルフ場は、5.7億円（19社合計）、リゾートクラブは、29.5億円（4社）で更新維持を中心に小規模な投資見込みとなっている。

3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

遊園地は、一定規模の投資を必要とするため借入金調達の占める割合が比較的高い。また、内部資金への依存度が高くなっており、資金需要は低い状態となっている。

ゴルフ場は、会員制による運営を行う企業が多くを占めるため、年会費や預託金などによる内部資金に依存する傾向にあり、中長期的にみても同様と見込まれる。

リゾートクラブは、預託金など会員からの拠出金による内部調達に特徴があるが、既存会員の解約要因もあるため、キャッシュフローの面で逆調を来す向きもある。また、会員権の新規需要も停滞気味なので、ここ数年、設備投資意欲を抑えられている。

前年度比%

余暇関連産業の設備投資動向の推移

